

市民フォーラム

第3回 認知症サミット鳥取

市民フォーラム「第3回認知症サミット鳥取」(同実行委員会主催)が9月16日、鳥取市尚徳町のとりぎん文化会館で開かれた。地域全体で認知症高齢者とその家族を支援するにはどうしたらよいか、映画上映や基調講演、各団体の活動報告などを通して考えを深めた。要旨を紹介する。

基調講演 「認知症予防のできるまちづくりを目指して」

浦上克哉氏
鳥取大学医学部保健学科
生体制御学講座教授



最近の研究では、認知症の半数を占めるアルツハイマー型は予防できることが分かってきました。予防には「進行防止」「早期発見・治療」「発症予防」の3段階があります。この三つを包括して取り組めるまちづくりが重要です。琴浦町では、9年前から認知症予防に取り組んでいます。「もの忘れ相談プログラム」というタツチパネル式の機械を使って早期発見を促しています。3カ月の教室で認知機能の改善がみられます。琴浦町で始まった取り組みは県内に広がっています。鳥取市や鳥取市、智頭町でも始まりました。県東部にも浸透するよう期待しています。

主催 認知症サミット鳥取実行委員会
共催 NPO法人がいなネット、社会医療法人明和会医療福祉センター、渡辺病院・認知症疾患医療センターなど
後援 新日本海新聞社など

「あいさつ」

小田 貢
「認知症サミット鳥取」は過去に米子市と倉吉市で開催し、今年も鳥取市で開催しました。今回は、社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院の渡辺憲院長の尽力で、映画の公開とともに監督の和田秀樹先生にも参加いただき、内容の濃いサミットにすることができました。来年からは東部、中部、東部の巡回で開催します。認知症に対する社会の対応に少しでも貢献できればと願っています。

渡辺 憲

20世紀初頭に発見されたアルツハイマー病などの認知症疾患は、21世紀に入って急速に治療法が進展し、症状の進行を遅らせることも可能になってきました。早期診断・治療が重要です。今回、認知症とともに地域で暮らすためには医療、福祉(介護)、地域社会がどのように本人、家族を支えていくべきかについて多面的に議論致しました。

シンポジウム「認知症とともに地域で暮らすために」

コーディネーター パネリスト



渡辺 憲氏
社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院院長



吉野 立氏
認知症の人と家族の会鳥取県支部代表



日野 力氏
鳥取県福祉保健部長寿社会課課長



和田秀樹氏
評論家、映画監督、国際医療福祉大学大学院教授



小田 貢氏
NPO法人がいなネット理事長
医療法人真誠会理事長



映画上映 「わたし」の人生

ある日、父が痴漢行為で問題がテーマ。警察に保護された。異変に気付いた娘。父の認知症が「わたし」の人生をどう変えていくのか。監督は、2007年のデビュー作でモナコ国際映画祭の作品賞を受賞した精神科医の和田秀樹氏。和田監督は「抱え込み過ぎない。場合によっては施設に入ることも悪くはない。映画を会を通して家族の絆を再見て気持ちを軽くしていただけたら」と、認知症サミット会場であいさつした。

家族の愛情や絆育てる

認知症は治らない病気です。薬で進行を遅らせても、数年後にはさまざま問題が起こったり家族は精神的なショックを受けたりします。このとき家族を理解する愛情があれば乗り越えることができます。家族に限らず、愛情を地域全体で深めるためには教育が大切です。人思いやる心を教える、子どもの情操教育にも効果があると思います。

行政が家族の心をケア

認知症の人には、徘徊や妄想的な言動が多い、衝動が抑制できないといった症状をもつ人もいます。これは、地域や行政の助けがなければ家族が崩壊してしまいます。小田先生がおっしゃった愛は、患者が感じるものだと思います。患者は「分かってもらえた」「うれし」「楽しい」と感じる機会が良くなり、病気の進行も遅くなります。

ご近所さんは見守って

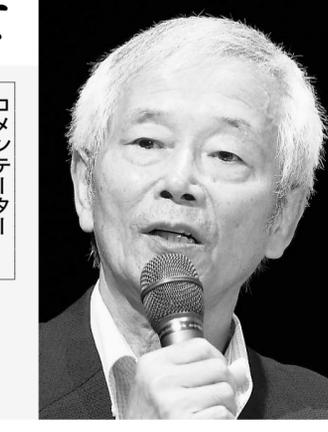
これからは認知症高齢者の一人暮らしが増えると思います。認知症が悪化する、食事や洗濯、買い物などが一人でできなくなります。その場合、医療サービス、介護保険サービス、成年後見制度などを利用して生活をサポートできます。しかし、普段何気なくしている近所づきあいや見守りは行政だけではできません。

介護者交流で元気回復

認知症の人と家族の生活を支えるために、介護家族の集いを開いています。介護者同士が集まって交流し、元気や介護に向かう力を取り戻す場です。介護者同士が支えあっています。現状では、介護者だけでなく家族が少し楽になります。年間2千件以上の電話相談があります。状況に合った解決方法を考えます。

高齢者ケアの三つの理念

小田先生は、認知症ケアを「愛」という言葉でまとめられました。日野課長が使われた「支え愛」にも通じるものです。この支え愛は、認知症高齢者と家族を地域で支えるキーワードになるかもしれません。以前、高齢者福祉の視察でデンマークへ行きました。医師、看護師、訪問介護のスタッフがたちど会いまし



山田修平氏
鳥取短期大学学長

「情」に寄り添い接して

人間には「情」と「知」があります。認知症は「知」が落ちるので、いかに「情」に寄り添うのが大切です。認知症で物事を覚えられない人には「大切なことはいっぱい覚えているよ。もう覚えなくてもいいよ」という気持ちで接したいです。100歳を超えた方から、長寿の秘訣は「汗をかき、恥をかき、人と会って話をすると恥をかき、刺激を受けます。地域で一人ぼつんとしている人がいたら、こつこつ集りに誘ってほしい。恥をかかからぬ嫌がられるかもしれませんが、これは認知症の予防になると思います。

シンポジウム活動報告

山田節子氏 鳥取西地域キャラバン隊連絡会会長
【主な活動】地域、小・中学生、高校でサポーター養成講座を開催し、寸劇で知
【課題】養成講座の受講者が少ない30〜50代へ啓発▽地域のミニシアターなどに予防教室を取り入れてもらう。【一言】サポーターになって、地域の支え合いの輪を広げましょう。



石賀純子氏
倉吉市認知症地域支援推進員

【主な活動】自治公民館や企業、学校でサポーター養成講座を開催し、高齢者との交流を促進。【課題】サポーターの役割を明確にする。【一言】さまざまな予防教室を開いています。近くの教室に参加して脳を活性化しましょう。



小谷いず美氏
智頭町地域包括支援センター保健師

【主な活動】講演会やグッズで知識を普及・啓発▽「物忘れ相談プログラム」で早期発見▽相談日と家族会を定期的に開催。【課題】若い世代への啓発強化▽医療機関や地域住民との連携▽若年性認知症への対策。【一言】多くの方に関心を持ってもらい、悩みがある方は抱え込まずに相談してください。

私たちは今後も認知症の早期発見、早期予防・治療に取り組んでいきます。

社会医療法人 明和会医療福祉センター

渡辺病院

理事長/院長 渡辺 憲
鳥取市東町3丁目307番地 TEL(0857)24-1151

鳥取県認知症疾患医療センター
TEL(0857)39-1151

ウエルフェア北園渡辺病院
院長 日笠親績
鳥取市覚寺181番地 TEL(0857)27-1151

医療法人真誠会

真誠会セントラルクリニック

米子市河崎580 ☎0859-29-0099

真誠会セントラルクリニックでは「物忘れ外来」を行っております。物忘れが心配になってきた方、あるいはご家族が今までと様子が変わってきたら早めにご相談ください。また認知症のご家族にどのように対応してよいか分からないとき、対応の仕方にも助言させていただきます。ご家族のご相談にはカルテによる受診は不要ですのでお気軽にお問い合わせください。

認知症かかりつけ医
院長 小田 貢

「新老人の会」鳥取支部

「新老人の会」会長 日野原重明

「新老人の会」の3つのモットーと一つの使命

- 愛し愛されること
- 創(はじ)めること
- 耐えること
- 子どもたちに平和と愛の大切さを伝えること

「新老人の会」に入って、いつまでも若々しい活動をして認知症になるのを防ぎましょう。

「新老人の会」へのお申し込みは ☎0859-29-0099
(米子市河崎580 真誠会セントラルクリニック内)